

平成 26 年 3 月 8 日 (土)

伊東愛子先生子育て講演会『発達障がいへの気づきと支援』

～小児科医から見る子育ての基本～

講師：山形県立総合療育訓練センター

診療科長（兼）小児科医長・伊東愛子先生



今年も伊東愛子先生をお招きし、講演会を開催しました。当日は、子育て・孫育て中の方、乳幼児教育機関・学童保育・児童デイ職員の方々など、幅広い立場から、134 名の方にご参加頂きました。

発達障がいの子どもへの対応を知ることは、どんな子育てにも通用する子育ての基本、一番大切な事に気が付くきっかけになります。終了後のアンケートの中には、「子育てだけでなく、人との向き合い方にも通用すると思う。妻との関係に活かそうと思った」という声も頂きました。

日々子育てに悩むお母さんやへ「子どもは、家庭の中にルールがあるから育つ事ができる」と愛子先生。落ち着きがない、人の話を聞かない等ルールを守れない子どもに、簡単にルールを崩すのではなく、個性を生かした温かみのあるルールがある

べき。子どもにとってルールは破るもの、ルールを破ろうとするエネルギーも、発達段階のひとつと考えれば、イヤイヤ期の子育ても笑顔で乗り切れそうですね。ルールや制約への挑戦は、子どもにとって家族とのつながり確かめる手段になったり、繋がりを育てるチャンスになったりします。そしてそのルールを持ち続けて行くことが安定した育ちにつながるのだと、具体例を出し、わかりやすく講義して頂きました。

講義の中で、印象的だったのが“ネットネイティブ”とも言われる現代っ子。お母さんではなく、スマホにあやされている子ども達の姿をよく見かける様になりました。今やスマホを操作できる2・3歳児の姿は珍しくなくなったように思います。そんな子ども達を見て「天才！」と誤解していませんか？幼少期の人との関わり不足は、思春期のドラックや援助交際、リストカットに繋がる割合も高く、リアルな社会での結び付きを持っていない人が増えています。

講演終了後、お子さんのスマホの使い方についての質問が寄せられました。子どものスマホは親が管理する事、リビングでみんながいる時に使うなどの家庭の中でルールを決める事が大切です。

そのルールを守るためには、親子の時間が子どもにとって楽しいものであればいい。(例えば、スマホの代わりに親子でトランプなど) 親子の関わりや密度や、信頼関係が何よりも子どもの発達には大切な事です。

